

平成23年度採択プログラム 中間評価調書  
 博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表]

機関名	大阪大学	整理番号	A02
1. 全体責任者  (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) ひらの としお 氏名・職名 平野 俊夫(大阪大学・学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) ひがしじま きよし 氏名・職名 東島 清(大阪大学・理事・副学長(教育担当))		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) ふじた きくお 氏名・職名 藤田 喜久雄・教授(大阪大学・工学研究科・機械工学専攻教授)		
4. 類型	A <オールラウンド型>		
5.	プログラム名称	超域イノベーション博士課程プログラム	
	英語名称	Cross-Boundary Innovation Program	
	副題		
6. 授与する博士 学位分野・名称	専攻分野：文学、人間科学、法学、経済学、応用経済学、経営学、理学、医学、 看護学、保健学、歯学、薬学、臨床薬学、工学、言語文化学、 日本語・日本文化、国際公共政策、情報科学、生命機能学、学術 付記する名称：超域イノベーション博士課程プログラム		
7. 主要分科	(① ) (② ) (③ ) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	総合系全分野全分科、人文社会系全分野全分科、理工系全分野全分科、生物系全分野全分科		
8. 主要細目	(① ) (② ) (③ ) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	文学研究科文化形態論専攻、同文化表現論専攻、人間科学研究科全専攻、 法学研究科法学・政治学専攻、経済学研究科全専攻、理科学研究科全専攻、 医学系研究科医学専攻、同保健学専攻、歯学研究科全専攻、 薬学研究科全専攻、工学研究科全専攻、基礎工学研究科全専攻、言語文化研究科全専攻、 国際公共政策研究科全専攻、情報科学研究科全専攻、生命機能研究科生命機能専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	パナソニック株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社ベネッセコーポレーション、 株式会社キャンサースキャン、株式会社健康都市デザイン研究所、一般社団法人アスリートネットワーク、 独立行政法人国際協力機構		

(機関名：大阪大学 類型：オールラウンド型 プログラム名称：超域イノベーション博士課程プログラム)

14. プログラム担当者の構成 計 66 名					
外国人の人数		0 人	[ 0.0% ]	女性の人数 6 人 [ 9.1% ]	
プログラム実施大学に属する者の割合 [ 87.9 % ]					
プログラム実施大学に属する者		58 人		プログラム実施大学以外に属する者 8 人	
そのうち、他大学等を経験したことのある者		49 人		そのうち、大学等以外に属する者 7 人	
15. プログラム担当者					
※他の大学等と連携した取組(共同実施を含む)の場合: 基幹大学に所属するプログラム担当者の割合 [ 87.9 % ]					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
(プログラム責任者) 東島 清	ヒガシジマ キヨシ		理事・副学長(教育担当)	物理学・理学博士	プログラムの責任者、総合計画会議議長
(プログラムコーディネーター) 藤田 喜久雄	フジタ キクオ		工学研究科・機械工学専攻・教授 未来戦略機構・第一部門長	設計工学・工学博士	プログラムの統括、総合計画会議副議長
小林 傳司	コバヤシ タダシ		コミュニケーションデザイン・センター・教授	科学哲学、科学技術 社会科学論・理学修士	プログラムの企画と運営、総合計画会議 構成員、総務WG主査
三成 賢次	ミツナリ ケンジ		法学研究科・附属法政実務連携センター・教授 コミュニケーションデザイン・センター・センター長	西洋法史、ドイツ 法・博士(法学)	プログラムの企画と運営、総合計画会議 構成員、総務WG (H25. 4. 1追加(交替))
佐藤 宏介	サトウ コウスケ		基礎工学研究科・システム創成専攻・教授 学際融合教育研究センター・センター長	計測工学・工学博士	プログラムの企画と運営、総合計画会議 構成員、履修生支援WG
平井 啓	ヒライ ケイ		大型教育研究プロジェクト支援室・准教授	行動医学・博士 (人間科学)	プログラムの企画と運営、総合計画会議 構成員、総務WG、選抜審査評価WG
竹村 治雄	タケムラ ハルオ		サイバーメディアセンター・教授 教育学習支援センター・センター長	ヒューマンインタフェース・博士 (工学)	プログラムの企画と改善、教務WG (H24. 4. 1追加(交替))
正城 敏博	マサキ トシヒロ		産学連携本部・教授	産学連携、知的財産 ・博士(工学)	プログラムの企画と改善、選抜審査評価 WG
大竹 文雄	オオtake フミオ		理事・副学長 社会経済研究所・教授	労働経済学、行動 経済学・博士(経済)	プログラムの企画と改善、教務WG
平田 オリザ	ヒラタ オリザ		東京藝術大学・アートイノベーションセンター・特任教授 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター・招へい教授 (H26. 4. 1より)	演劇	プログラムの企画と改善、選抜審査評価 WG
高橋 広明	タカハシ ヒロアキ		パナソニック株式会社 人材開発カンパニー・ 研修グループ・グループマネージャー	グローバル人材育 成	プログラムの開発支援と点検
伊藤 宏幸	イトウ ヒロユキ		ダイキン工業株式会社テクノロジー・イノベ ーションセンター設立準備室 グループリーダー	共同研究開発、技 術経営企画	プログラムの開発支援と点検
竹内 健一	タケうち ケンイチ		株式会社ベネッセコーポレーション 大阪支 社・大学事業部営業担当課長	教育事業	プログラムの開発支援と点検 (H24. 4. 1追加(交替))
福吉 潤	フクヨシ ジュン		株式会社キャンサースキャン 代表取締役	ソーシャルマーケ ティング、アント レプレナーシッ プ・MBA	プログラムの開発支援と点検
井垣 貴子	イガキ タカ		株式会社健康都市デザイン研究所 代表取締役	都市政策、環境デ ザイン、医療福祉 計画・修士(都市 政策学)	プログラムの開発支援と点検
岡本 依子	オカモト ヨリコ		一般社団法人アスリートネットワーク 副理事 長理事	テコンドー指導・ 学士(人間科学)	プログラムの開発支援と点検
築野 元則	ツノ モトノリ		独立行政法人国際協力機構 関西国際セン ター・所長	国際交流事業	プログラムの開発支援と点検 (H25. 6. 20追加(交替))
宮原 暁	ミヤハラ キョウ		グローバルコラボレーションセンター・准教授	社会人類学・博士 (社会人類学)	プログラムの開発と改善、教務WG
上田 晶子	ウエタ アキコ		グローバルコラボレーションセンター・特任准 教授	開発学・博士(開 発学)	プログラムの開発と改善、自己点検・外 部連携WG
大谷 晋也	オオタニ シンヤ		国際教育交流センター・准教授	日本語教育学、言 語社会学・修士 (言語文化学)	プログラムの開発と改善、教務WG (H25. 4. 1追加(交替))
松行 輝昌	マツユキ テルマサ		全学教育推進機構・大学院横断教育部門・准教 授	アントレプレナー シップ・M.A.	プログラムの開発と改善、総務WG
小貫 有紀子	オノキ ユキコ		未来戦略機構・戦略企画室・特任講師	教育社会学・博士 (教育学)	該当なし (H26. 4. 1 追加(交替))
堤 研二	ツツミ ケンジ		文学研究科・文化形態論専攻・教授	人文地理学・博士 (文学)	学生の履修支援と育成、選抜審査評価WG
藤田 治彦	フジタ ハルヒコ		文学研究科・文化表現論専攻・教授	美学、芸術学・学 術博士	学生の履修支援と育成
檜垣 立哉	ヒガキ タツヤ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	哲学、現代思想・ 博士(文学)	学生の履修支援と育成、総合計画会議構 成員、教務WG主査

(機関名: 大阪大学 類型: オールラウンド型 プログラム名称: 超域イノベーション博士課程プログラム)

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成25年度における役割)
河森 正人	カモリ マサト		人間科学研究科・グローバル人間学専攻・教授	東アジアの高齢者福祉に関する比較研究・博士(創造都市)	学生の履修支援と育成
中山 竜一	ナカヤマ リウイチ		法学研究科・法学・政治学専攻・教授	法理学・法学修士	学生の履修支援と育成、総合計画会議構成員、自己点検・外部連携WG主査
浦井 憲	ウライ ケン		経済学研究科・経済学専攻・教授	理論経済学、数理経済学、経済思想・博士(経済学)	該当なし (H26. 4. 1追加(交替))
廣田 誠	ヒロタ マコト		経済学研究科・政策専攻・教授	近代日本経済史・博士(経済学)	学生の履修支援と育成、自己点検・外部連携WG
三道 弘明	サントウ ヒロアキ		経済学研究科・経営学系専攻・教授	オペレーションズ・リサーチ、マネジメント・サイエンス・学術博士、博士(工学)	学生の履修支援と育成
大鹿 健一	オオシカ ケンイチ		理学研究科・数学専攻・教授	位相幾何学・理学博士	学生の履修支援と育成
下田 正	シモガタ シン		副学長・全学教育推進機構・機構長 理学研究科・物理学専攻・教授	原子核物理学・理学博士	学生の履修支援と育成、教務WG
小川 琢治	オガワ タクジ		理学研究科・化学専攻・教授	有機化学、ナノ化学・理学博士	学生の履修支援と育成
柿本 辰男	カキモト タツオ		理学研究科・生物科学専攻・教授	生物学・博士(理学)	学生の履修支援と育成
今田 勝巳	イマダ カツミ		理学研究科・高分子科学専攻・教授	生体高分子構造・博士(理学)	学生の履修支援と育成
中嶋 悟	ナカシマ サトル		理学研究科・宇宙地球科学専攻・教授	地球物理化学・理学博士	学生の履修支援と育成 (H24. 4. 1追加(交替))
宮崎 純一	ミヤザキ ジュンイチ		医学系研究科・医学専攻・教授	発生再生医学・理学博士	学生の履修支援と育成
三善 英知	ミヨシ エイチ		医学系研究科・保健学専攻・教授	生化学、消化器内科学・博士(医学)	学生の履修支援と育成、履修生支援WG
今里 聡	イマザト サトシ		歯学研究科・口腔科学専攻・教授	歯科材料学、生体材料学・博士(歯学)	学生の履修支援と育成、教務WG
平田 收正	ヒラタ カズマサ		薬学研究科・創成薬学・教授 グローバルコラボレーションセンター・センター長	応用環境生物学・博士(薬学)	学生の履修支援と育成、選抜審査評価WG主査
橋本 均	ハシモト ヒトシ		薬学研究科・医療薬学専攻・教授	分子神経薬理学・博士(薬学)	学生の履修支援と育成
菊地 和也	キクチ カズヤ		工学研究科・生命先端工学専攻・教授	ケミカルバイオロジー・博士(薬学)	学生の履修支援と育成
生越 専介	オゴシ センスケ		工学研究科・応用化学専攻・教授	有機金属化学・博士(工学)	学生の履修支援と育成
安武 潔	ヤスタケ キヨシ		工学研究科・精密科学・応用物理学専攻・教授	機能材料・博士(工学)	学生の履修支援と育成 (H24. 4. 1追加(交替))
中谷 彰宏	ナカタニ アキヒロ		工学研究科・知能・機能創成工学専攻・教授	機械工学、変形体の力学・博士(工学)	学生の履修支援と育成
金子 真	カネコ マコト		工学研究科・機械工学専攻・教授	ハイパーヒューマン工学・工学博士	学生の履修支援と育成
平田 好則	ヒラタ コノリ		工学研究科・マテリアル生産科学専攻・教授	加工物理学・工学博士	学生の履修支援と育成、教務WG副主査
尾崎 雅則	オザキ マサノリ		工学研究科・電気電子情報工学専攻・教授	電子工学・工学博士	学生の履修支援と育成
黒崎 健	クロサキ ケン		工学研究科・環境・エネルギー工学専攻・准教授	原子力工学、環境エネルギー材料工学・博士(工学)	学生の履修支援と育成、教務WG、履修生支援WG
常田 賢一	トキダ ケンイチ		工学研究科・地球総合工学専攻・教授	地盤耐震工学・博士(工学)	学生の履修支援と育成
加賀 有津子	カガ アツコ		工学研究科・ビジネスエンジニアリング専攻・教授	建築・都市計画・空間情報学・博士(工学)	学生の履修支援と育成
田谷 正仁	タヤ マサヒト		基礎工学研究科・物質創成専攻・教授	生物化学工学・農学博士	学生の履修支援と育成
三宅 淳	ミヤケ ジュン		基礎工学研究科・機能創成専攻・教授	生物物理学、細胞工学、バイオエネルギー工学・理学博士	学生の履修支援と育成
上田 功	ウエダ イサヲ		言語文化研究科・言語文化専攻・教授	言語学・文学修士	学生の履修支援と育成、教務WG
杉田 米行	スギタ ヨシユキ		言語文化研究科・言語社会専攻・教授	日米関係、日本医療保険制度史、アメリカ外交・Ph. D. (U. S. History)	学生の履修支援と育成
鈴木 睦	スズキ ムツミ		言語文化研究科・日本語・日本文化専攻・教授	日本語教育学・文学修士	学生の履修支援と育成 (H24. 4. 1追加(当該専攻の新設))

(機関名:大阪大学 類型:オールラウンド型 プログラム名称:超域イノベーション博士課程プログラム)

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成25年度における役割)
野村 美明	ノムラ ヨシアキ		国際公共政策研究科・国際公共政策専攻・教授	国際私法、国際取引法、国際経済法、紛争解決法、リーダーシップ・法学修士	学生の履修支援と育成
松繁 寿和	マツシゲ ヒサカズ		国際公共政策研究科・比較公共政策専攻・教授	労働経済学、人事経済学、教育経済学、キャリアデザイン・博士(経済学)	該当なし (H26.4.1追加(交替))
日比 孝之	ヒビ コウチ		情報科学研究科・情報基礎数学専攻・教授	組合せ論・理学博士	学生の履修支援と育成
森田 浩	モリタ ヒロシ		情報科学研究科・情報数理学専攻・教授	オペレーションズ・リサーチ・博士(工学)	学生の履修支援と育成
萩原 兼一	ハギハラ ケンイチ		情報科学研究科・コンピュータサイエンス専攻・教授	ハイパフォーマンスコンピューティング・工学博士	学生の履修支援と育成
今井 正治	イマイ マサル		情報科学研究科・情報システム工学専攻・教授	情報システム学・工学博士	学生の履修支援と育成
東野 輝夫	ヒガシ ヒロオ		情報科学研究科・情報ネットワーク学専攻・教授	情報工学・工学博士	学生の履修支援と育成
細田 耕	ホシタ コウ		情報科学研究科・マルチメディア工学専攻・教授	ロボティクス・博士(工学)	学生の履修支援と育成
松田 秀雄	マツダ ヒデオ		情報科学研究科・バイオ情報工学専攻・教授	バイオインフォマティクス・学術博士	学生の履修支援と育成、総合計画会議構成員、履修生支援WG主査
濱田 博司	ハマダ ヒロシ		生命機能研究科・生命機能専攻・教授	発生病理学・医学博士	学生の履修支援と育成、履修生支援WG

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

### 【概要】

超域イノベーション博士課程プログラム(以下では、「本プログラム」と称す)では、専門領域、国境、既成概念、相場観といった、様々な「境域」を超えて社会システムを変革へと導くイノベーションを牽引し社会のあらゆる方面でトップリーダーとして活躍する人材の輩出を目指している。すなわち、所属研究科での教育研究を通じて培われる専門力を基盤としつつ、社会での実践のための力量としての汎用力を研究科横断型・副専攻方式のコースワークにより修得させることにより、未知で複雑で困難な課題の解決を先導するための超域力を持つ博士人材の育成に取り組んでいる。

### 【特色】

本プログラムでは、超えるべき境域、すなわち解決すべき課題として、1) 専門領域を超える、2) 文字情報偏重を超える、3) 国境を超える、4) 旧来の思考パターンを超える、5) 科学技術決定論を超える、6) 私的利益を超える価値観・倫理観、7) 独善的エリート主義を超える、8) 組織を超える、の8つを位置付けている。そのもと、超域力を持つ博士人材に求められるアクションとして、(専門を) 究める、(学際領域へ) 越える、(新機軸を) 創る、(全体像を) 現す、(人々と) 交わる、(組織として) 連なる、(プロセスを) 導く、(イノベーションに) 挑むの8つを具体化した上で、教育すべき内容を究と越に関わる **Knowledge**、交と連と導に関わる **Skills**、創と現と挑に関わる **Integration** に大別することを基盤として明確化し、一貫した学位プログラムを整備している。コースワークの内訳は、**Integration** に直結する**コア科目群**、**Knowledge** に関わる**知識・教養系科目群**(人文系、社会科学系、理工系、生命科学系、トランスディシプリナリー系)、**Skills** に関わる**展開力系科目群**(トランスファラブルスキルズ、研究リテラシー)と実践的英語運用能力の育成と多言語の修得を図る**言語科目群**からなるラーニング科目群、課題発見から実践へと展開する各種活動であるアクティビティ科目群等から構成しており、全67科目(平成26年度)を新たな文理統合型教育として独自に開発・提供している。一連の科目は、研究室エクスプローラーや海外フィールドスタディを通じた学ぶべき事項や解くべき課題の認識、要素としての知識やスキルの獲得、ワークショップやプロジェクトを通じたそれらの統合化、専門研究やインターンシップでの実践による強化からなる“学修のスパイラル”として組み立ており、一連の内容が紡がれて超域力として結実することを目指している。それらの中でも、統合化や強化に関わる部分では、中核科目として、履修生数名からなる文理混成チームが社会課題に挑み、課題発見・解決力を総合化する「超域イノベーション総合」を3年次に、現場に赴いて社会課題に挑み、課題解決力を実践し、磨き上げる“長期インターンシップ”を4年次に配置している。

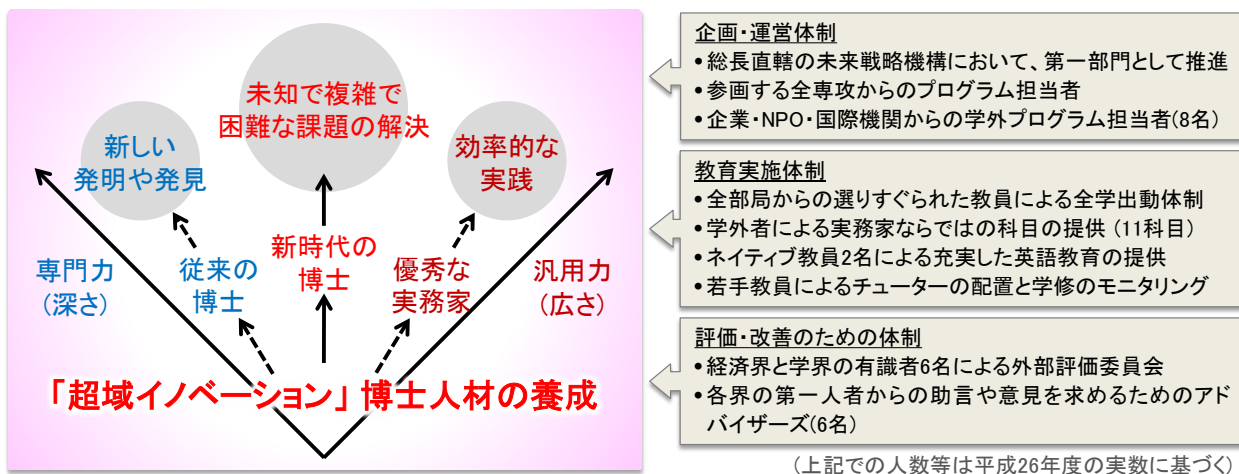
本プログラムには博士課程を有する全研究科への進学予定者が応募でき、知的体力を問う多段階方式により履修生を選抜しており、平成26年度の履修生50名は文理のバランスが取れた構成になっている。さらに、前期2年、後期3年の博士課程5年間に対応するコースでは、2年次末に、それまでのコースワークでの達成度と研究進捗状況に基づく **Preliminary Qualifying Examination (Pre-QE)** を課し、進級の可否を判定する。そして、3年次末の **Qualifying Examination (QE)** において、超域イノベーションを牽引する博士候補生となり得るかを総合的に判定し、その後の発展的な学修と研究活動により、政財官民学界においてグローバルリーダーとなり得る博士人材を輩出しようとしている。

### 【優位性】

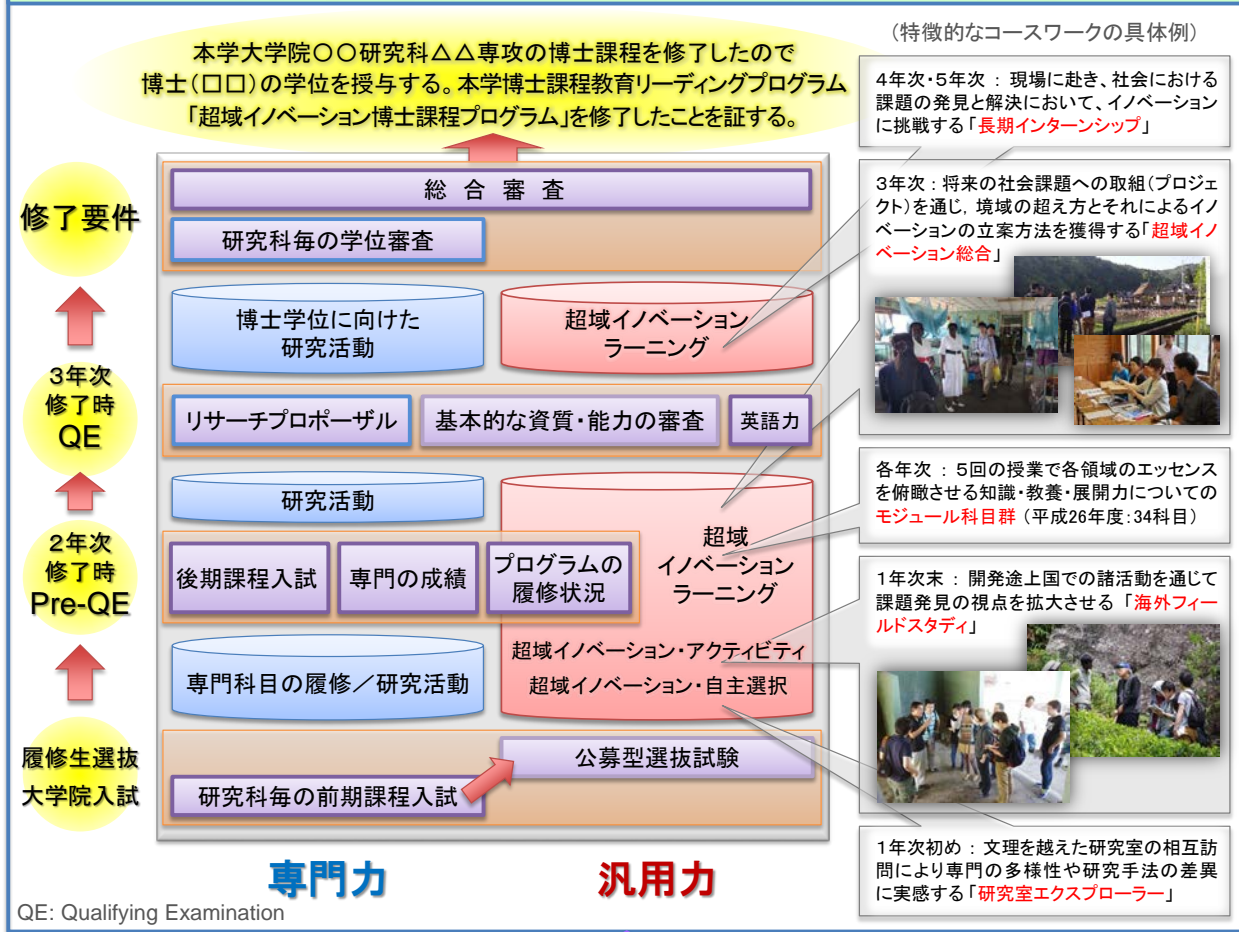
本プログラムでは、大阪大学における様々な大学院改革の実績を“社会でトップリーダーとして活躍する博士人材”を輩出するという一点に集約し先鋭的な取組を実施し、さらに、その持続的な発展、次世代の高等教育としての普遍的標準化という観点から本学の教育全般への展開を目指している。そのため、部局を超えて横断的な新たな学術のインキュベーションを目指す未来戦略機構の第一部門として、プログラム担当教員に限らず、幅広い教員が企画や運営等に参画して、全学体制により推進している。加えて、国内外の多様なセクターとの相互理解と協力関係を築き、コースワークでは、実践家ならではの多数の科目を組み込むなどして、博士課程教育のオープンイノベーションを目指している。

### 学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



## 大阪大学「超域イノベーション博士課程プログラム」



### 大阪大学における大学院教育の改革と実績

- 15件の21世紀COEプログラム
- 高度教養教育「知のジムナステックス」(221科目)
- 大阪大学高度アジア人材育成プログラム
- 12件のグローバルCOEプログラム
- 高度副プログラム(35プログラム)
- FrontierLab@OsakaU
- 25件の大学院GP(「魅力ある大学院教育」イニシアティブ13件、組織的な大学院教育改革推進プログラム12件)
- 副専攻プログラム(3コース)
- インダストリー・オン・キャンパス(共同研究講座制度など)

## 「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	大阪大学	整理番号	A02
プログラム名称	超域イノベーション博士課程プログラム		
プログラム責任者	東島 清	プログラムコーディネーター	藤田 喜久雄

### (評価決定後公表)

#### (総括評価)

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

#### [コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、「超域」すなわち特定の分野における高い専門性を基盤として、全体を俯瞰した上でその専門を他の専門と統合して活かしていくことができる独創的な力を身に付けるというコンセプトに意義を見出し、主専攻とプログラムの両立という、時間的、心理的、経済的困難にもかかわらず、本プログラムに参加することに意義を見出した学生がこれに積極的に参加し、自身の成長を実感していることは学位プログラムが着実に構築されていると判断でき、高く評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、本プログラムに参加することにより多くの学生が多面的見方ができるようになり、そのことによって自分の専門分野の持つ意味をより深く理解するようになり、大きな「知的体力」を得ていることを実感し、これまでとは違ったキャリアパスを選択する学生が出てきていることから、彼らの今後の活躍が期待される。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、座学に加えて大手企業役員等の学外プログラム担当者の指導、海外研修、企業等でのインターンシップなどのほか、トップアスリートが身につけているスキルについて学ぶ合宿などユニークな試みを行っており、中でも実際の社会の問題の解決を試みようとするプロジェクト型演習が自らの成長に大きな効果があることを学生自身に感じさせている点は評価できる。

優秀な学生の獲得については、本プログラムの内容が学生に広く知られるようになった結果、自覚と目的を持った学生が応募するようになった点は評価できる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、学生に対するカリキュラム評価アンケート、自己評価、外部評価という多重の評価に基づく、PDCA サイクルの実施により、その内容の改善に努めている点は評価できる。

事業の定着・発展については、本プログラムの理念が全学に浸透している点、そしてその成果を将来の「世界適塾構想」の中に生かしてゆこうとする構想は評価できる。